



Formula
NIPPON

NEXT STAGE

協議会設置のご提案

2011/06/30



日本自動車レース工業会

JRPとJMIAは思想的にも理念においても対極にあると思っています。唯一、共通の思いがあるとすれば、お互いに、日本の自動車レースがもう少しでもメジャーに華やかになれば嬉しいという思いではないでしょうか。

つまり、目指す方向はそれほど変わらないのですが、そこに至る道筋の描き方がまるっきり異なるから協力しあえる環境にはならないんですよね。私たちの考え方は、さまざまなチャンスにしつこく表明してきましたし、添付の「日本の自動車レース事情と技術立国日本の関係」にも要約しているので、よく御存じない方は、一度、目を通していただければ幸いです。

*その他、下記のホームページでもいろいろな意見を述べていますので参考にしてください。（童夢ホームページ→COLUMN/ESSAY）

Nov.03.2010「せめてLobsterに」

http://www.dome.co.jp/column/dt_83.html

Sep.21.2010「厭世観という終末治療」

http://www.dome.co.jp/column/dt_81.html

Aug.04.2009「クルマとモータースポーツの明日(GAZOO RACING)」

http://gazoo.com/racing/column/relay_column/hayashi01.asp

ドライバーの育成に特化したJRPの方針は、天才ドライバーの偶然の降臨を待ち続けているのですか?それとも、創り上げようとしているのですか?偶然を待っているのなら40年間も待ち続けています。創り上げるなら40年間成功していません。おまけに、日本における自動車レースのポジションは低迷を続けたままです。

今まで日本人F1チャンピオンが出現していない理由は何なのでしょうね?偶然を待つならこれからも待ち続けるしかないし、創り上げようとしているのなら、長年に亘って目的が果たせていない原因を自覚しないといつまでも変わることはありません。

もう十分に時間を費やしたのだから、そろそろ、異なる道筋にも関心を向けるのが向上心というものですし、そこから新しい希望を見つけ出す能力を創造力と言います。

あからさまなマシンの戦いの無いFN用のレーシングカーの開発／生産など容易いことですし、コストやサービスについてもマイナスの要素はどこにもありません。

だからここで、国産の優位性をあれこれ並べ立てる気はありませんし、JRPは今までも、もっと恣意的な選定をしてきましたから、ここでは、事、ハードウェアの問題だけに矮小化するのではなく、「ドライバーの育成だけを考えるのではなく、これからは、日本の自動車レースの発展振興も視野に入れた取り組みを考えませんか?」という提案とさせていただきます。

もう、日本の技術や産業をないがしろにしたドライバーの育成のみに特化した自動車レースなど、もうその必要性や存在理由さえも説明がおぼつきませんし、これ以上、外国製のみを採用し続ける理由の説明にも無理が生じてくるでしょう。

セールスとかプレゼンテーションというスタンスではなく、「いかに日本の自動車レースを盛り上げていくか」について、対等の立場で協議する場を設けませんか?

もし、可能であれば連絡をください。お返事をお待ちしています。

日本自動車レース工業会
会長 林 みのる

その場合の日本自動車レース工業会側の参加予定メンバーです。

代表	大岩(副会長)
	鮎子田(JMIA顧問)
	松浦(理事)
	由良(理事)
必要に応じて	奥(童夢)
	湯地(童夢)



日本自動車レース工業会

〒 521-0023 滋賀県米原市三吉 215-1 Tel.0749-54-1526 Fax.0749-54-1527 E-mail post@jmia.jp